



教員が研究の楽しさを語る

第215回(1/29)ブックガイド

ガイタニディス・ヤニス先生



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

近現代日本の宗教変動：実証的宗教社会学の視座から

著者：寺田喜朗 [ほか] 編著

出版：ハーベスト社, 2016.6

コメント：日本の宗教と社会の関係を最近の宗教社会学研究の視点から理解したい人におすすめの一冊です。または、宗教社会学という学問を通して達成できる研究成果・理解を見本として読める本でもあります。



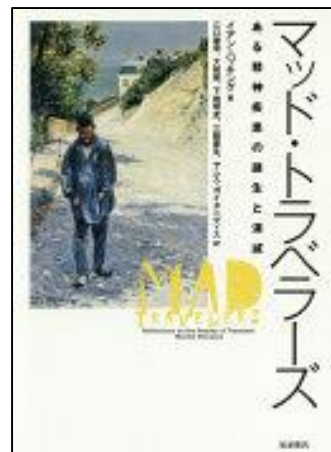
Book2

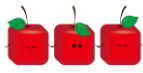
マッド・トラベラーズ：ある精神疾患の誕生と消滅

著者：イアン・ハッキング著；江口重幸 [ほか] 訳

出版：岩波書店, 2017.8

コメント：癒しを求める人、または提供している人は必ず何らかの形で科学的思考や実践と接することになります。この本は世界的に有名な科学哲学者のIan Hackingの著書の翻訳本です。Ian Hackingは科学哲学者といっても幅広いテーマについて研究してきた人であり、この本は精神医学の歴史の中で起きた、とても面白い出来事について語っています。社会と科学の相互作用が一時期しか診断されない精神疾病を生み出すことは可能だろうかという問いに答えてくれる本です。





Book3

Consuming religion

著者：Kathryn Lofton

出版：The University of Chicago Press

コメント：現代社会は完全な消費社会であるという表現があります。この本は現代社会でみられる消費行動（ドラマの一气見や金融グループのゴールドマン・サックスの考え方など）を宗教研究を通して、実は理解可能な行動であると議論しています。「宗教」とはまったく関係がないと思ったところの解説まで「宗教」という概念が役に立つと教えてくれる一冊です。

